

メタモルフォーゼプロジェクト—変身を通じた地域交流

活動状況報告

宮城大学 伊藤真市研究室

・いず☆ちゅう祭

2013年7月14日に、泉中央駅前広場で開催された、いず☆ちゅう祭に、本プロジェクトも参加させていただきました。学生ワークショップコーナーにて、紙袋マスク作り体験を行いました。紙袋をベースに、世界に一つだけのオリジナルのマスクを作ってもらいました。参加者は約30人で、参加された年齢層は幼稚園児～中学生でした。毛糸やマスキングテープ、ストロー、折り紙など様々な材料を用意しました。当日のワークショップ運営は研究室所属の学生7名で執り行いました。あえて作り方の指示はせず、ハサミ等の注意が必要な道具の取り扱いを指導するだけに留め、参加者に各々自己表現をしてもらえるように心がけました。自分だけのマスク制作に夢中になって取り組んでいる子供の姿が多く見受けられました。完成後は、こちらで用意したインスタントカメラのチェキでマスクをつけた姿を撮影し、マスクとその記念写真を持ち帰ってもらいました。

メタモルフォーゼプロジェクト (宮城大学)

かみぶくろ マスク 作り体験

13:00 ~ 15:00

かみぶくろを自由
気ままにデコレーション
して自分だけの仮面を
つくろう!

宮城大学 伊藤真市研究室では、日々デザインに関わる様々な研究・活動に積極的に取り組んでいます。近年では、仮設住宅で生活をされている方のお話を伺い、それらを元にデザイン・制作した標札をプレゼントする「標札プロジェクト」や、震災以降の仙台・宮城の街の光景をつくりを考える「黎明探検団シンポジウム」を開催しました。また、県立で学ぶ学生として地域のイベントへ積極的に参加し、ワークショップの企画・運営を行い世代間交流を通じた絆づくりによる地域活性化に取り組んでいます。



・泉区民ふるさとまつり

2013年8月24日に、泉区民ふるさと祭りに、本プロジェクトも参加させていただきました。ボディペイント体験ワークショップを執り行いました。ワークショップ運営は研究室所属の学生9名で行いました。ボディペイント用の絵の具やペンで来場者の顔や腕に、こちらで用意した絵柄や来場者のリクエストのキャラクターや名前などをペイントしました。夏祭りということもあり、浴衣やステージ衣装と合わせて楽しんでいただくことができました。体験された方の年齢層は、赤ちゃん～大人の方までと幅広く、普段体験できないボディペイントに好評を得ることができ、行列が絶えない大盛況のワークショップとなり参加者は約80人程でした。



・ 将監南町内ふれあいまつり

2013年9月29日に、将監南集会所で開催された将監南町内ふれあいまつりに、本プロジェクトも参加させていただきました。ボディーペイント体験ワークショップを執り行いました。ワークショップ運営は研究室所属の学生6名で行いました。ボディーペイント用の絵の具やペンで来場者の顔や腕に、こちらで用意した絵柄や来場者のリクエストのキャラクターや名前などをペイントしました。また、ふれあいまつりではボディーペイントに加えて、ヘアカラーチョークを用意し、髪を好きな色にアレンジできるようにしました。体験後はインスタントカメラ チェキで記念撮影を行い、写真をプレゼントしました。町内の小学生を中心に参加者は約20人だったので、ふるさとまつりと比較するとふれあいまつりでは参加者と密な交流ができ、ボディーペイントもより多くのリクエストに応えることができました。またワークショップを越えて町内の方々と交流することができました。



・高森地区での交流会

高森地区では地域の大学生が一緒になって地域のイベントを実施しています。2012年に引き続き、2013年10月27日に、高森八丁目集会所で行われた交流会(芋煮会)に参加させていただきました。研究室所属の学生7名が参加し、芋煮会の運営のお手伝いを通して地域の子供～高齢者まで幅広い世代の方とふれあいを大事にした交流をすることができました。芋煮会終了後には、反省会にも参加させていただき、地域と地域で学ぶ学生の連携の必要性等を双方で話し合い、繋がりを深めることができました。



・七北田児童センター ワークショップ

2014年1月25日に七北田児童センターにてワークショップを行わせていただきました。この活動では今までのようにイベントに出展するのではなく、休日児童センターに集まった子供達を対象としたワークショップを開催する形で行いました。ワークショップ運営は研究室所属の学生6名で行いました。節分に向けて、鬼のお面づくりワークショップを執り行いました。お面が完成したらインスタントカメラ チェキでお面をつけた姿を撮影しお面と一緒に記念写真を持ち帰ってもらいました。参加は約15名ほどでした。広報活動を積極的に行うことや、お面を作るだけでなく完成品をつけて遊んでもらう工夫が必要だと感じられました。

